

当院におけるAST活動について 看護師の立場から

紀南病院 感染対策室

感染管理認定看護師 根本保正

病院概要



東紀州南部 (人口約32000人)
熊野市 御浜町 紀宝町

二次救急指定病院 災害拠点病院等
外来患者1日平均：322人
救急受け入れ年間：約1500人
一般病棟140床・地域包括ケア病棟60床
回復期リハビリテーション病棟40床 感染症病床4床

AST活動

- 抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team:AST)

抗菌薬の不適切な使用や長期間の投与が、AMR微生物を発生あるいは蔓延させる原因となりうるため、そのAMR対策として患者さんへの抗菌薬の使用を適切に管理・支援するための実働チーム

紀南病院 医師2名 薬剤師1名 検査技師1名 看護師1名

ICT活動

- 院内感染対策チーム (Infection Control Team : ICT)

AMR微生物の院内感染を防止するため、AMR対策として院内全体の感染動向の早期把握や感染対策を適切に管理するための実働チーム

ASTの業務

- ①感染症治療の早期モニタリングと主治医へのフィードバック
- ②微生物検査・臨床検査の利用の適正化
- ③抗菌薬適正使用に係る評価
- ④抗菌薬適正使用の教育・啓発
- ⑤院内で使用可能な抗菌薬の見直し
- ⑥他の医療機関からの抗菌薬適正使用の推進に関する相談を受ける

出典 平成30年度診療報酬改定 II - 1 - 5) 感染症対策や薬剤耐性対策、医療安全対策の推進②

①感染症治療の早期モニタリングと主治医へのフィードバック

メインは医師・薬剤師・細菌検査技師

指定抗菌薬使用症例・血液培養陽性例へのモニタリング

2018年当初メンバーが揃う時間が中々…

⇒昼休みに集まろう

抗菌薬治療時は培養を採ろう

看護師 昼ごはんの準備
コロナ流行まで…



②微生物検査・臨床検査の利用の適正化

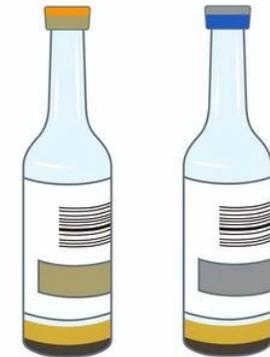
メインは細菌検査技師

適切な検体採取と提出

アンチバイオグラムの作成

看護師

検体採取方法・手技の見直しや指導



⇒ 例)血液培養

採取部位・採取者記載 消毒薬ポピボンヨードからクロルヘキシジンアルコールへの変更

血液培養

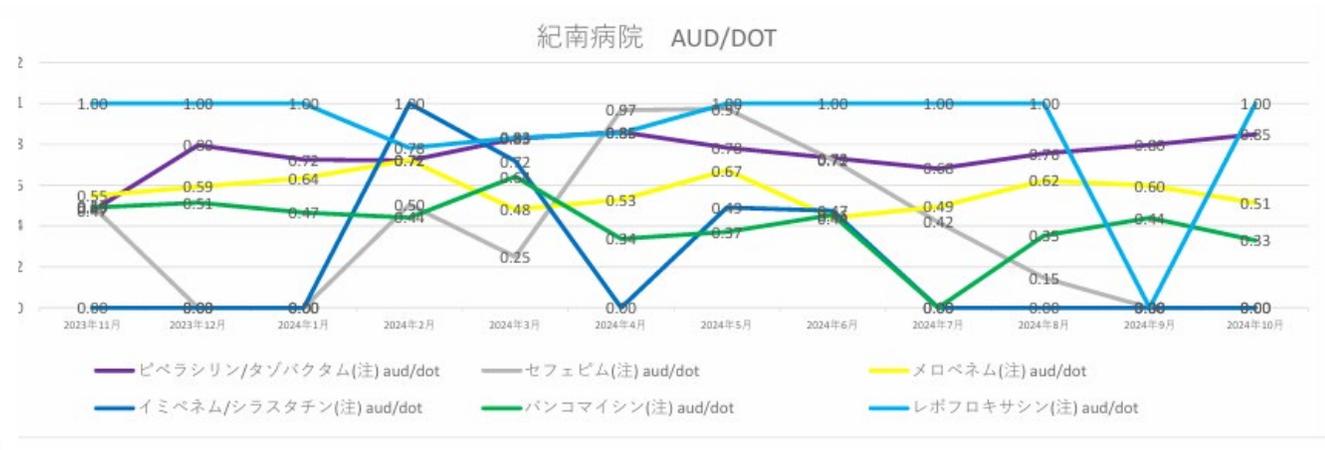
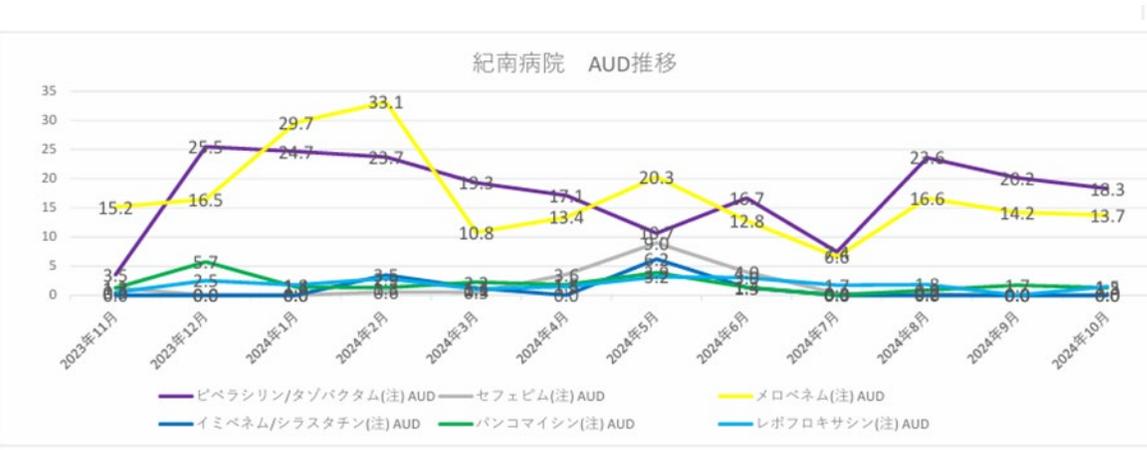
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
複数セット採取率	98.5	98.8	96.8	94.6	98.0	98.9	93.3	100.0	66.7	49.5	53.4	84.1
コンタミ率	1.1	4.0	2.2	4.3	0.9	1.0	6.5	3.2	4.4	1.0	1.1	1.4
陽性率	13.6	16.3	16.4	16.2	14.7	11.7	13.0	17.0	14.0	13.0	13.8	13.7

③抗菌薬適正使用に係る評価

指定抗菌薬の日々のモニタリングは薬剤師

看護師

薬剤師の人員不足サポートで集計やグラフ作成

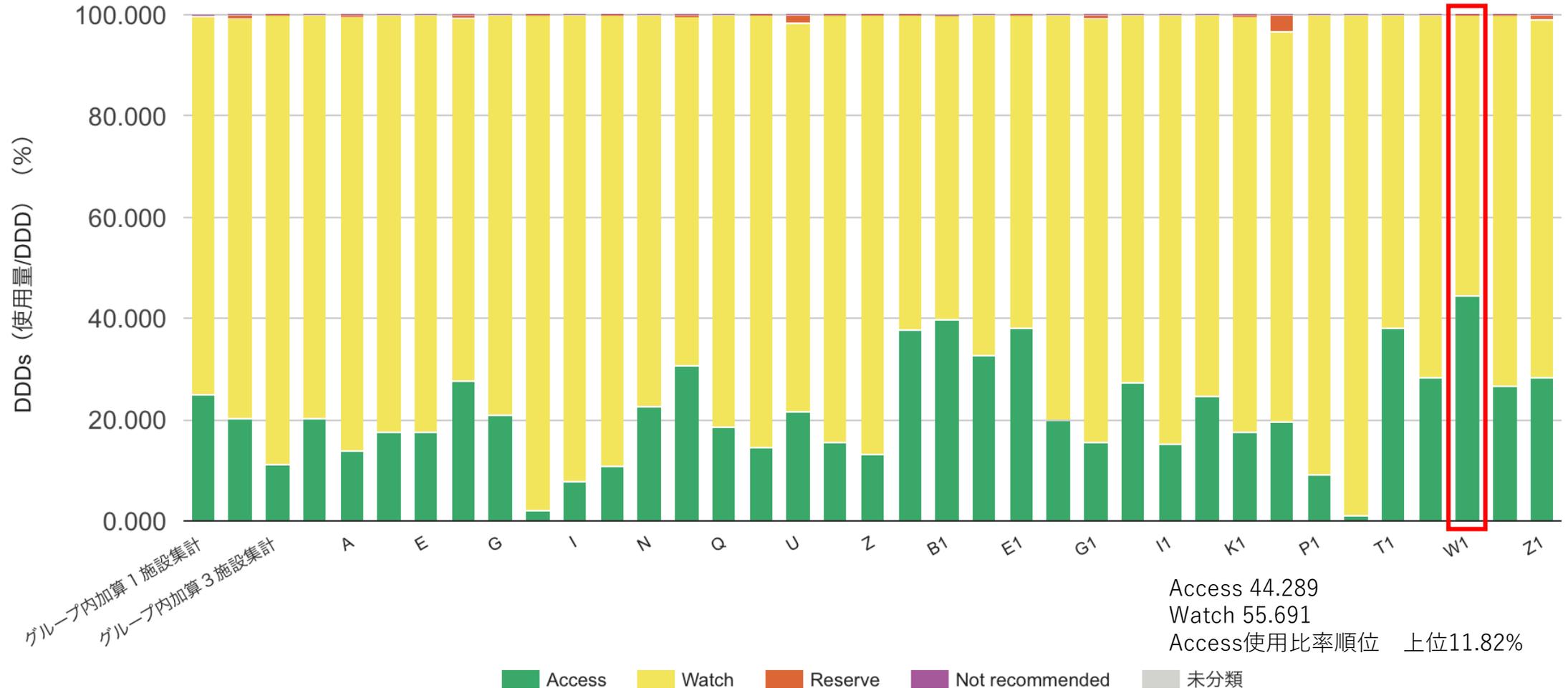


AWaRe分類での比較（100%積み上げ）

【期間：2024年04月～2024年11月

表示対象：三重県グループ 表示単位：使用量

診療科区分：病院全体 薬剤種別：内服 AWaRe分類：全選択】



④抗菌薬適正使用の教育・啓発

研修会

⇒薬剤師・看護師

昨年 経口第3セフェム系薬剤の話・PK/PDの話

抗菌薬マニュアルの作成・改定

⇒医師監修で薬剤師・看護師で案を作成、AST確認、感染対策委員会へ

⑤院内で使用可能な抗菌薬の見直し

メインは薬剤師・医師

近隣病院の状況よりもNICE ASPで相談することが多い

NICE ASP

J-siphe加入後、2020年10月より伊勢赤十字病院が開催しているカンファランス
ASTに限らずICT活動の情報共有をしているが、当院としては困りごとをまとめて
相談する窓口になっている

⑥他の医療機関からの抗菌薬適正使用の推進に関する相談を受ける

看護師は窓口として、ASTで検討して回答する

⇒感染症専門医等、専門家がおらず、一緒に考え悩む事も多い

近隣病院の場合 指定抗菌薬のラウンドの見学に来てもらうことも

まとめ

当院のAST活動は医師・薬剤師・検査技師がメイン
看護師の役割(あまり何もしていない…)
連携を支える役割
足りていない部分の埋める手伝い



ご清聴ありがとうございました